五胡十六国の系譜

小林惣八

一　はじめに

五胡十六国の名称は『十六国春秋』(1)によるといわれる。五胡とは、匈奴・羯・鮮卑・氐・羌をいう。王朝の数は厳密にいうと十九国であるが、のちに北魏を建設した代、比較的勢力の弱かった西燕、期間の短かった冉閔の魏は除かれるから、十六国とは匈奴族の前趙・北涼・夏、羯族の後趙、鮮卑族の前燕・後燕・南燕・西秦・南涼、氐の成（漢）・前秦・後涼、羌族の後秦、漢人の前涼・西涼・北燕となる。

この期間は、三〇四年〈漢―のちの前趙、成（漢）が成立した年〉から四三九年〈北涼が滅亡した年〉までの一三五年間。

この期間の特色としては、中国王朝の晋が南渡し、中国史上はじめて中国の一部が異民族に支配され、漢民族は江南に圧迫され、争乱が度々展開したため、漢文化が少なからず破壊されたこと。やがて華北が統一されて、北朝社会を生み出す母体となっていったことなどがあげられる。

五胡とは、前述のように匈奴・羯・鮮卑・氐・羌をさす。

五胡の民族は、中原の混乱に乗じて一挙に華北に侵入したのではなく、後漢から三国時代にかけて、しだいに中国の周辺を侵食したり、あるいは移住を許されて漢人または漢文化に接触していった。

匈奴は、後漢のはじめに内付した南匈奴の部衆でオルドスに居住していたが、西晋のころには汾水流域に定住し、佃客とし

て農耕生活を営んでいたものが強力になっていた。

匈奴の別種といわれる羯も、山西の楡社付近にいた。

いっぽう鮮卑は、慕容・宇文・段・拓跋などの諸部に分かれ、遼河の上流域から河北、山西の北辺に拡大していた。

また氐や羌も後漢末いらい陝西、甘粛方面に入って漢人と雑居し、農耕牧畜を行っていた。

晋では、このような異民族の内地移住を危惧するものが現れた。胡族を辺外に移すべきことを説いた郭欽の上訴[2]や、そのまま放置すれば恐るべき禍根となることを述べた江統の徙戎論[3]などはその代表的なものである。ところが国内に八王の乱が勃発して、河南、陝西が戦場と化すと、五胡の諸族は各地に蜂起して独立の態勢をかためた。

五胡の社会・経済は、多年の争乱が続いたため、民衆は流亡するか、あるいは奴隷に転落せざるをえなくなり、この中には胡族の捕虜で奴隷となったものが多かった。また、華北の漢人豪族は多く江南に移動したが、華北に残留した漢人豪族も多く、彼らは、五胡の君主に従来の身分あるいは特権を与えられてその傘下にはいり、やがて官僚貴族化していった。

一方、戦乱と流民の発生とによって華北の土地は荒廃したが、各王朝は田土の開発を盛んに行い、また征服地の民を移住させて労働力の増加をはかった。しかし、このような土地開発は、国家の財政的基盤を確保するために国家が直接土地経営を行うことが多く、たとえ農民に土地所有をみとめても、高率の租税や苛酷な徭役を課し、土木建築のための徴発と戦争のための徴兵とは、民衆の生活を極度に圧迫した。

一般にこの時代の商業は低調であった。

五胡の文化としては、戦乱の続いた社会不安の時代に飛躍的発展をしめした仏教がとりあげられる。当時、仏教は漢人の社会では、まだ伝統的な儒学や老荘思想に圧倒されていたが、異民族である五胡の君主によって儒学や老荘思想と対等の地位におかれ、みずから仏教を信奉するとともに、仏教によって民衆を教化しようとはかった。とくに、彼らは高僧を政治上の顧問、あるいは軍事上の参謀としてむかえた。とくに有名なのは仏図澄。やがて、仏図澄の門から道安・僧朗・法雅などの漢人の高

弟が輩出して、仏教は華北に広まった。他に鳩摩羅什がいる。彼は後秦の姚興のもとで仏典の中国訳を行い、仏教の弘通に大きな貢献をした。

仏教が華北を中心に広まった理由は、五胡の君主が仏教教団をだきこむことによって、みずからの国家の繁栄をみちびこうとしたからにほかならない。

註 本稿に使用せる年代記述はすべて中国王朝の晋・宋代の年号を使用。

尚、末尾に《十六国の系譜》を掲げたので併せて参照されたい。

二 十六国の系譜

十六国の系譜をたどるにあたっては、次の表一「五胡十六国帝王表」、表二「五胡十六国興亡表」を参照し、且つ添いながら展開して行きたい。

(一) 匈奴

①前趙（図1）

前趙（漢）は、匈奴族に属し、姓は劉氏。

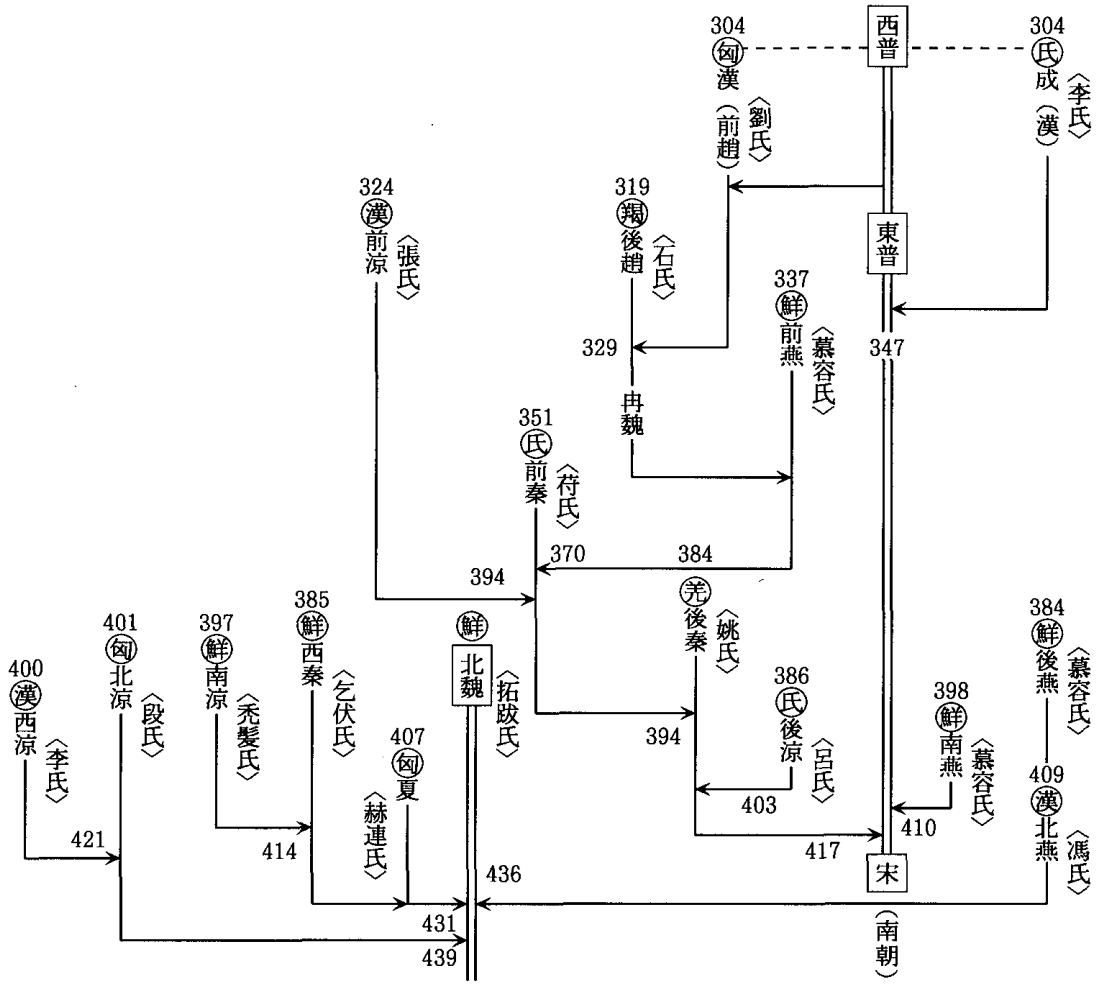
晋の恵帝永興元年（三〇四）より晋の成帝咸和四年（三二九）まで三主二五年間存続。都は平陽（山西・臨汾県）のち長安（陝西）に移る。

劉淵[4]は匈奴人。晋の八王の乱に乗じて離石（山西・永寧）に拠り、永興元年（三〇四）左国城（離石東北）に都し、「漢」と称す。太原・上党・西河を略取し、永嘉五年（三一一）淵の子聡洛陽を陥し、懐帝を虜とし平陽に至る。それ以前永嘉四年（三一〇）聡簒立。建興四年（三一六）淵の族子曜長安を攻め陥し、愍帝降り西晋滅亡す。曜長安に都し、

表一　五胡十六国帝王表

族系	国名	建国者	帝王数	都城	興亡年代	滅其国者
匈奴	前趙	劉淵	三	平陽・長安	三〇四～三二九	前秦苻堅
〃	北涼	沮渠蒙遜	二	張掖・姑藏	四〇一～四三九	北魏拓跋珪
〃	夏	赫連勃勃	三	統萬	四〇七～四三一	北魏拓跋珪
羯	後趙	石勒	六	襄国・鄴	三一九～三五一	冉魏
鮮卑	前燕	慕容皝	三	龍城・鄴	三三七～三七〇	前秦苻堅
〃	後燕	慕容垂	五	中山・龍城	三八四～四〇九	北燕馮跋
〃	西秦	乞伏国仁	四	苑川	三八五～四三一	夏赫連定
〃	南涼	禿髮烏孤	三	楽都	三九七～四一四	西秦乞伏氏
〃	南燕	慕容徳	二	滑台・広固	三九八～四一〇	普劉裕
氐	成(漢)	李雄	五	成都	三〇四～三四七	普桓温
〃	前秦	苻健	六	長安	三五一～三九四	西秦乞伏乾帰
〃	後涼	呂光	三	姑藏	三八六～四〇三	後秦姚興
羌	後秦	姚萇	三	長安	三八四～四一七	普劉裕
漢人	前涼	張軌	五	姑藏	三二四～三七六	前秦苻堅
〃	西涼	李暠	三	敦煌	四〇〇～四二一	北涼沮渠蒙遜
〃	北燕	馮跋	二	龍城	四〇九～四三六	北魏拓跋珪

表二　五胡十六国興亡表



国名の上に○で示した略称は民族名。→は滅亡の次第を示し、括弧内は姓氏を示す。

「漢」を改め「趙」と称す。歴史上「前趙」と呼称す。隴右諸郡を略取し、仇池（甘粛・成県）を降し、涼州の張茂を臣下としたが、咸和四年（三二九）後趙に滅ぼされる。

②北涼（図2）

北涼は、匈奴族に属し、姓は沮渠氏。

晋の安帝隆安五年（四〇一）より宋の文帝元嘉一六年（四三九）まで二主三九年間存続。都は姑蔵（甘粛・武威）。

沮渠蒙遜[5]は姑蔵に拠り、その盛時には西は西域、東は河湟を控える。

義熙三年（四〇七）西河王と称す。宋の文帝元嘉九年（四三一）卒す。子の牧虔立つ、魏は彼をして涼州刺史河西王としたが、元嘉一六年（四三九）姑蔵は魏に占領され、牧犍は降伏し、北涼滅亡す。

③夏（図3）

夏は、匈奴族に属し、姓は赫連氏。

晋の安帝義熙三年（四〇七）より宋の文帝元嘉八年（四三一）まで三主二五年間存続。都は統萬（陝西・横山）のち甘粛平涼に移る。

勃勃[6]は匈奴左賢王の苗裔なり。父は劉衛辰。統萬に拠り「夏」と称す。その盛時には、南は秦領を隔て、東は蒲坂を守り、西は秦隴を収め、北は長河に至る。その後、昌・定二代続いたが、宋の文帝元嘉八年（四三一）魏に滅ぼされた。

（二）羯

①後趙（図1）

後趙は、羯族に属し、姓は石氏。

晋の元帝太興二年（三一九）より晋の穆帝永和七年（三五一）まで六主三二年間存続。都は襄国（河北・邢台）のち鄴（河南・臨漳）に移る。

石勒[7]は匈奴の別種羯の人なり。始め上党に居り、のち前趙の劉淵に降り、永嘉五年（三一一）劉曜とともに洛陽を攻め陥し、東の葛陂（新蔡西北）に屯し、北の襄国（河北邢台西南）に拠る。趙と称し、歴史上は「後趙」と呼称す。勒の死後、従子の石虎が簒立し、鄴に遷都す。虎が死に、養子の冉閔が石氏種族を殺して自立。趙を改め「魏」と号す（三五〇）。永和七年（三五一）前燕に滅ぼされる。

（三）鮮卑

①前燕（図1）

前燕は、鮮卑族に属し、姓は慕容氏。

晋の成帝咸康三年（三三七）より晋の海西公太和五年（三七〇）まで三主三三年間存続。都は龍城（熱河朝陽）のち鄴（河南・臨漳）に移る。

慕容氏は遼東より起こり、廆の子皝の時、自ら燕王と称し、後趙の石虎を敗り、東の高句麗を破る（三三八）。のち龍城（朝陽）に都す（三四二）。北の宇文氏を滅ぼし（三四四）、又扶餘を兼ねる（三四六）。その子儁立つ。

慕容儁[8]は、趙の衰えるのに乗じて幽州を席巻し、三五〇年薊に都を移す。すでに翼州を略し、冉魏を滅ぼし（菰水の戦）帝と称して鄴に遷都す。その後、淮泗の地（山東嶧県）を略し、幽州の代・上谷・漁陽・遼西・右北平・平州の昌黎・遼東・楽浪に及ぶ。

子の暐立つ、洛陽を略し、南の宛に至る（三六六）。盛時には、南は汝穎に至り、東は青斉を下し、西は峋渾を撃ち、北は雲中に至る。

②後燕（図1）

後燕は、鮮卑族に属し、姓は慕容氏。

晋の孝武帝太元九年（三八四）より晋の安帝義熙五年（四〇九）まで五主二五年間存続。都は中山（河北・定）のち龍

城（熱河・朝陽）に移る。

慕容垂[9]は、前燕主皝の子。肥水の戦いに敗れてのち自ら燕王と称し、北は翼州を定め、中山に都す。これを歴史上「後燕」と呼称す。盛時には、東は瑯邪・遼海・南は襄城に及び、西は河汾を界し、北は代に隣接す。

その後拓跋魏の勢い強く、并州を奪われ、中山を抜かれ、僅かに東北の遼城及び楽浪十余郡を残すのみとなる。

③南燕（図1）

南燕は、鮮卑族に属し、姓は慕容氏。

晋の安帝隆安二年（三九八）より晋の安帝義熙六年（四一〇）まで二主一二年間存続。都は広固（山東・益郡）。

慕容徳[10]は、後燕主垂の弟、今の山東に拠り、魏の進出を阻み、自ら燕王と称す（三九八）。四〇〇年帝と称し、義熙元年（四〇五）死す。兄納の子超立つ、義熙六年（四一〇）劉裕に滅ぼされ、この地はことごとく晋領となる。

④西秦（図2）

西秦は、鮮卑族に属し、姓は乞伏氏。

晋の孝武帝太元十年（三八五）より宋の文帝元嘉八年（四三一）まで四主四七年間存続。都は勇子城（甘粛・楡中）のち金城（甘粛・皐蘭）・抱罕（甘粛・臨夏）へと移る。

隴西鮮卑、乞伏国仁[11]の建てた国家なり。

初め乞伏述廷は苑川に居り、劉曜に服していたが、曜亡き後麦田（靖遠北）に移る。司繁の代には前秦に降り（三七一）長安に留まる。子の国仁の代には自ら秦河二州の牧と称し、勇子城（靖遠西南）を築き都とする。乾帰の代には河南王と称し、都を金城（蘭州）に移したが、前秦王登が金城王と称したことから（三八九）、四〇〇年再び苑州の地に帰る。その後は後秦に依り、時に反し時に降る。乾帰の死後子の熾磐立ち、自ら河南王と称し、後秦の隴西郡を降し、南涼を襲い、楽浪に入る（四一四）。のち秦王と称す。熾磐の死後子の末立つ、まもなく夏に降り滅亡す。

⑤南涼（図3）

南涼は、鮮卑族に属し、姓は禿髪氏。

晋の安帝隆安元年（三九七）より晋の安帝義熙十年（四一四）まで三主一八年間存続。都は楽郡（青海・楽郡）のち西平（青海・西平）に移り再び楽郡に移る。

禿髪烏孤[12]の建てた国家なり。

南涼の盛時には、東は金城を抵し、西は西海に至る。南は澆河を有し、北は玄武に拠る。

これより先、烏孤は三九七年西平王と称し、後涼の金城及び玄武・楽郡・湟河・澆河五郡を略取し、改めて武威王と称し、楽郡に都した（三九八）。その後利鹿孤が立って河南王と称す（四〇一）。又弟傉檀の時涼王と称す。その後は北涼沮渠蒙遜・西秦王熾磐に攻められ、四一四年滅亡す。

（四）氐

①成（漢）（図1）

成（漢）は、氐族に属し、姓は李氏。

晋の恵帝永興元年（三〇四）より晋の穆帝永和三年（三四七）まで五主四三年間存続。都は四川成都。

李雄[13]は劉淵（前趙王）と同時に晋にそむき（三〇四）、蜀に拠り「成」と称した。

雄は、北の漢中を略取し、東の涪陵・巴郡を略す。西は漢嘉・越嶲を収め、また巴東及び建平を取り、寧州のことごとくを制す。

雄の死後、子の期立つ。咸康四年（三三八）李壽が期を廃して自立。国号を「漢」と改める。成（漢）の盛時は、東は三峡を守り、南は黔滇を兼ね、西は岷邛、北は南鄭に拠る。

李壽の時、寝衰す。子の勢立つがまもなくして滅ぶ。

②前秦（図2）

前秦は、氐族に属し、姓は苻氏。

晋の穆帝永和七年（三五一）より晋の孝武帝太元一九年（三九四）まで六主四四年間存続。都は陝西長安、のち晋陽（山西・太原）・湟中（青海湟中）へ移る。

苻健[14]は氐の人。前燕主の慕容儁と同時に帝と称す（三五一）。都は長安。晋の穆帝永和七年（三五一）天王と称し、国号を「秦」とす。健の死後、子の生立つが苻堅[15]に廃される。苻堅は豪雄で、すでに東の燕を滅ぼし、また南の仇池を降し、北の代を略し、西の涼を滅ぼす。

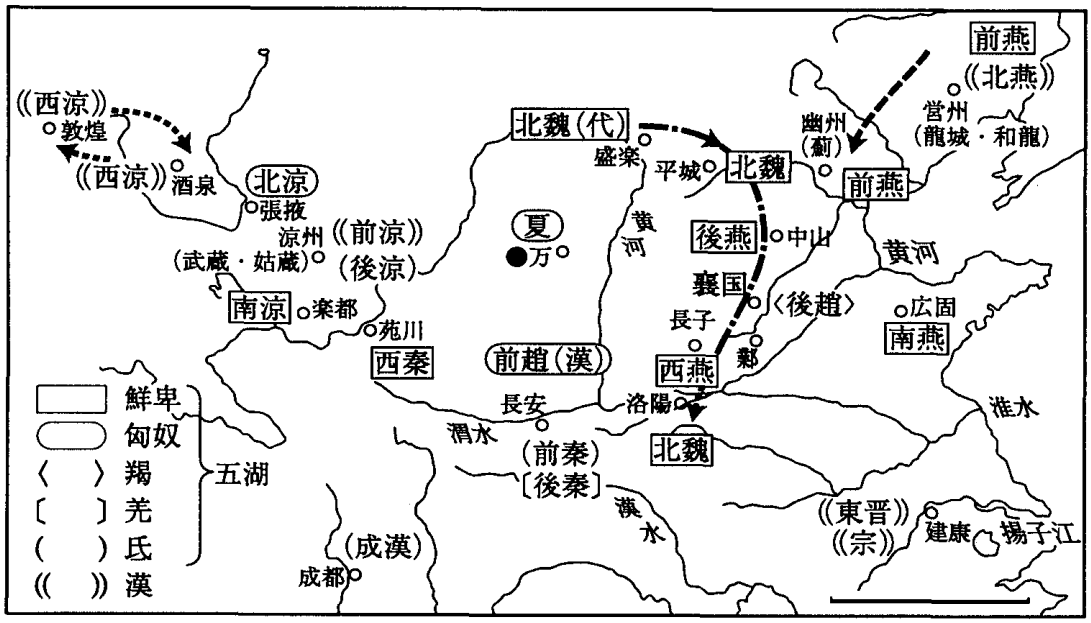
前秦は、苻堅の時、西域・高句麗・新羅・西南夷の六二国を制し、凡そ二七州、百八十郡を略し、十六国中最も強盛となる。しかし、堅の晩年に至って、鮮卑の後燕・西燕・西秦、羌の後秦、氐の後涼、仇池の拓跋魏が起こり、崇に至って滅ぶ。

③後涼（図3）

後涼は、氐族に属し、姓は呂氏。

晋の孝武帝太元一一年（三八六）より晋の安帝元興二年（四〇三）まで三主一七年間存続。都は姑蔵（甘粛・武威）。

氐人の呂光[16]は、前涼の古の地である姑蔵より起こる。光はもと前秦の驍将であった。



五胡十六国要図『中国の歴史3巻』講談社版所収

西域の焉耆・尉頭・高昌等三十余国を征服し、南羌を撃ち、抱罕を略取す。光の死後、後涼は衰え、元興三年（四〇三）後秦の姚興に滅ぼされた。

（五）羌

①後秦（図1）

後秦は、羌族に属し、姓は姚氏。

晋の孝武帝太元九年（三八四）より晋の安帝義熙一三年（四一七）まで三主三四年間存続。都は陝西長安。

姚萇[17]は羌人なり。始め前秦の苻堅に降る。堅が肥水の戦いで敗れた時、羌の衆は彼を盟主とし、自ら秦王と称す（三八四）。北地に屯し、新平・安定を得、堅を五将山で捕殺す。ついに長安に入城し、帝と称す（三八六）。萇の死後、子の興立つ。前秦の苻登を敗り、西上邽を略取し、東蒲坂を収め、洛陽を陥す。この時、西秦・南涼・北涼みな前後して臣となる。最盛期の領域は、南は漢川に至り、東は汝潁、西は西河、北は上郡を守る。

義熙元年（四〇五）、晋の劉裕に南陽・順陽を割き、新野・舞陰等一二郡を与う。二年南涼を辱す。三年夏の赫連勃勃が反し、嶺北（安定以北）の郡県多く侵略す。六年西秦の乾帰、隴西諸郡を攻略す。秦の地は日々削られ、興の死後、子の泓立ってまもなく、義熙一三年（四一七）劉裕のために滅ぼされる。

（六）漢人

①前涼（図1）

前涼は、漢族に属し、姓は張氏。

晋の明帝太寧二年（三二四）より晋の孝武帝太元元年（三七六）まで五主五三年間存続。都は甘粛武威。

張軌[18]は漢人なり。もと晋につかえ、河西の地を保有す。重華の時始めて涼王と称す。その子玄靚の時、涼州の牧となるが、重華の弟天錫の自立により殺害される。その後、三七六年前秦の苻堅に滅ぼされた。

②西涼（図2）

西涼は、漢族に属し、姓は李氏。

晋の安帝隆安四年（四〇〇）より宋の武帝永初二年（四二一）まで三主二一年間存続。都は甘粛酒泉のち甘粛敦煌に移る。

漢人の李暠[19]が建てた国家なり。領域ははなはだ狭く、最も精力が弱い。暠は初め、晋の隆安四年（四〇〇）敦煌護軍郭謙等と共に推されて敦煌太守となる。のち推されて沙州刺史となり涼公と称した。

暠は兵を遣わして涼興を取り、玉門以西の諸城を略取す。隆安五年（四〇一）に至って、北涼の蒙遜の勢いが強まり、酒泉・涼寧二郡を奪われる。

暠の死後、子の歆立ち、ついでその弟恂が立ってまもなく、北涼の蒙遜によって滅ぼされる。

③北燕（図3）

北燕は、漢族に属し、姓は馮氏。

晋の安帝義熙五年（四〇九）より宋の文帝元嘉一三年（四三六）まで二主二八年間存続。都は和龍（熱河・朝陽）。

馮跋[20]は漢人なり、初め後燕に仕え、和龍に據る（四二三）。歴史上「北燕」という。

跋の死後、弟の宏立つ。連年魏の征討を受け、宏は和龍を捨て、高句麗に走ってのち殺された。この地は魏領となる。

三　おわりに

五胡十六国の系譜と題し考究してきた。ややもすると大国史観に終わりがちな中国の歩みの中では、特異な時代がこの時期である。

十六国の攻防は、一三五年の長きにわたり華北に荒廃をもたらした。それまで築かれてきた文化は破壊され、民衆は塗炭の苦しみを強いられた。気概ある士は、華南に新天地を求めたし、志しある者は、一国の主を夢見て十六国の一翼をねらった。がこれもはかばかしくなく短期間でその野望は潰え、華北の荒廃を増強させるのみであった。

各国の君主の取った政策は、ある面では夢想であり、時に現実化したものもあったが長くは続かなかった。例えば、後趙で実施した屯田政策や戸調制、前燕での牧牛を貧家に支給しての苑田政策等があげられる。このような混乱期に、力と統率力ある人物・国家が出現すれば一朝にして離散は集合・統一へと進展する。その統一を達成したのが拓跋氏であり、魏の建国である。江南の歩みをよそに、華北の混乱はいましばらく続く、がこれも長くは続かなかった。後の隋・唐の建国がこれを物語る。

註

(1) 崔鴻撰「十六国春秋」中華書局

(2) 生没年不明、西晋の人。侍御史（一説には御史大夫）の時、晋人の華北への入植を励行し、しだいに異民族を境外に出すことを上奏したが用いられず、そのことが原因となって後年五胡十六国の乱をみるにいたった。『晋書』九七巻北狄伝。

(3) ?～三一〇、西晋の文臣、陳留・圉の人。「徙戎論」を作り、異民族の内地侵入雑居の憂うべき情勢を論じた。警世の言であったが、朝廷は有効な対策を講ずることなく、五胡の乱を招いた。『晋書』五六巻江統伝。

(4) 劉淵、?～三一〇、在位三〇四～三一〇、前趙第一の主。光文帝と諡す。山西匈奴単于の正系である新興（山西省忻定県）の匈奴人劉氏の出身。『十六国春秋輯補』一～一〇巻、前趙録。

(5) 沮渠蒙遜、三六八～四三三、在位四〇一～四三三。匈奴系の一国、北涼の始祖。武宣王と諡す。『晋書』一二〇巻、『魏書』九九巻、沮渠蒙遜伝。

(6) 赫連勃勃、?～四二五、在位四〇七～四二五。夏の建国主。武烈皇帝と諡す。『晋書』一三〇巻、赫連勃勃伝。

(7) 石勒、二七四～三三三、在位三一九～三三三。後趙の建国者。明帝と諡す。『晋書』一〇四・一〇五巻、石勒載記。

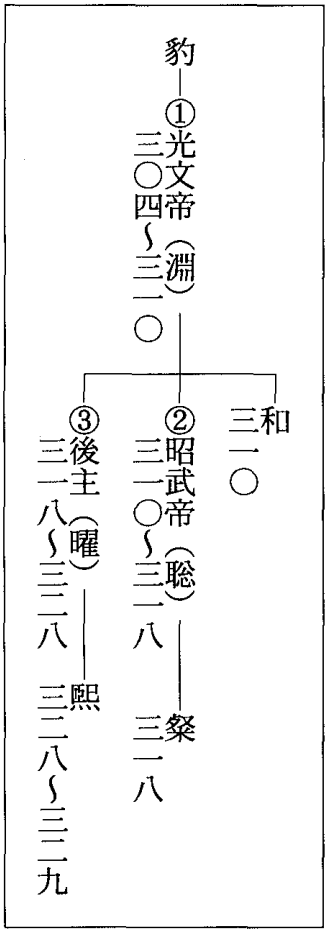
(8) 慕容儁、二九七～三四八、在位三三三～三四八。前燕第一代の王。文帝と諡す。『晋書』一〇九巻、慕容皝載記。

(9) 慕容垂、三二六～三九六、在位三四八～三九六。後燕第一代の王。武成皇帝と諡す。『晋書』一二三巻、慕容垂載記。
(10) 慕容徳、三三六～四〇五、在位三九八～四〇五。南燕第一代の王。献武皇帝と諡す。『晋書』一二七巻、慕容徳載記。
(11) 乞伏国仁、？～三八八、在位三八五～三八八。西秦第一代の王。宣烈王と諡す。『晋書』一二五巻、乞伏国仁載記。
(12) 禿髪烏孤、？～三九九、在位三九七～三九九。南涼第一代の王。武王と諡す。『晋書』一二六巻、禿髪烏孤載記。
(13) 李雄、二七四～三三四、在位三〇三～三三四。漢（成漢）第一代の王。太宗と諡す。『晋書』一二一巻、李雄伝。
(14) 苻健、三三八～三八五、在位三五一～三五五。前秦第一代の王。景明皇帝と諡す。『晋書』一一二巻、苻健載記。
(15) 苻堅、三三八～三八五、在位三五七～三八五。前秦第三代の王。宣昭皇帝と諡す。『晋書』一一三、一一四巻、苻堅載記。
(16) 呂光、三三七～三九九、在位三八六～三九九。後涼第一代の王。懿武皇帝と諡す。『晋書』一二二巻、呂光載記。
(17) 姚萇、三三〇～三九三、在位三八四～三九三。後秦第一代の皇帝。武昭帝と諡す。『晋書』一一六巻、後秦載記。
(18) 張軌、二五五～三一四、前涼の始祖。武穆公と諡す。『晋書』八六巻、張軌伝。
(19) 李暠、三五七～四一七、在位四〇〇～四一七。西涼第一代の王。武昭王と諡す。『晋書』八七巻、涼武昭王李玄盛伝。
(20) 馮跋、？～四三〇、在位四〇九～四〇三。北燕第一代の君主。文成皇帝と諡す。『晋書』一二五巻、馮跋戴記。

《十六国の系譜》

（一） 匈奴

①前趙（図1）



②北涼（図2）

法弘—①武宣王（蒙孫）—②哀王（牧犍）
四〇一～四三三　四三三～四三九

③夏（図3）

衛辰—①武烈帝（勃勃）
四〇七～四二五
　②秦王（昌）　四二五～四二八
　③後王（定）　四二八～四三一

（二）羯

①後趙（図1）

耶奕于
　周昚朱—①明帝（勒）—②海陽王（弘）
　　三一九～三三三　三三三～三三四
　匐邪—寛負—③武帝（虎）
　　三三五～三四九
　　○　○　○　○
　　④後主（遵）　三四九
　　⑤後主（鑒）　三四九～三五〇
　　⑥後主（祇）　三五〇～三五一

（三）鮮卑

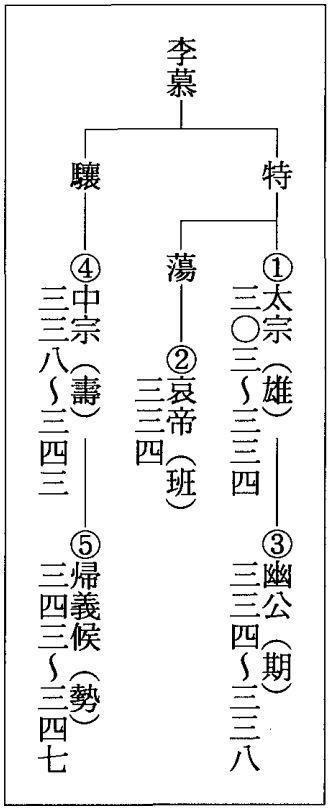
①前燕　②後燕　③南燕（図1）

④西秦（図2）

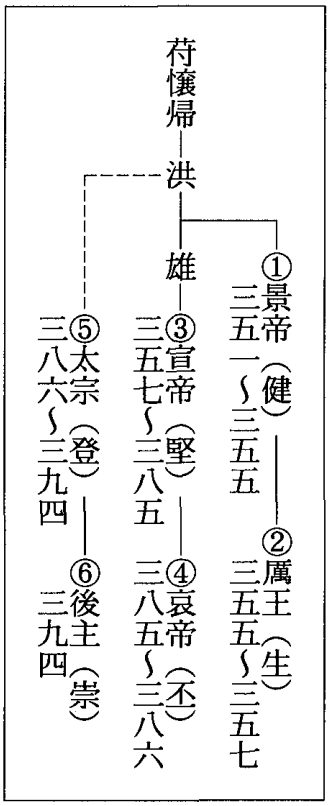
⑤南涼（図3）

（四）氐

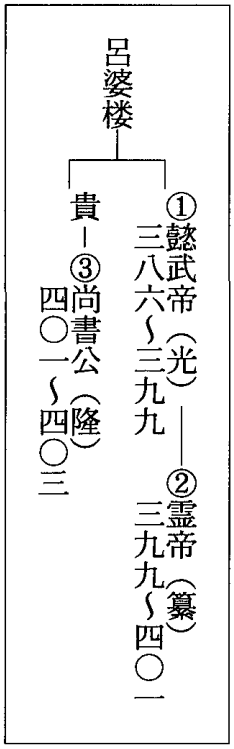
①成（漢）（図1）



②前秦（図2）



③後涼（図3）



（五）羌

①後秦（図1）

（六）漢人

①前涼（図1）

張軌―實―①文王（駿）三二四～三二四五
　　―②桓王（重華）三四六～三五二―④冲王（玄靚）三五五～三六三
　　―③威王（祚）三五四
　　―⑤悼公（天錫）三六三～三七六

②西涼（図2）

李弇―昶―①武昭王（暠）四〇〇～四一七
　　―②後主（歆）四一七～四一九
　　―③後主（恂）四二〇～四二一

③北燕（図3）

馮和―安
　　―①文成帝（跋）四〇九～四三〇
　　―②昭成帝（宏）四三一～四三六